



経済社会委員会などの国際機関をはじめ、環境政策に携わる皆様方、ようこそ京都にお越しいただきました。260万京都府民を代表いたしまして心から歓迎を申し上げます。

さて、京都府の地形は南北に大変に長く、その面積の75%を森林が占めております。緑豊かな土地柄でございます。また、ここ舞鶴をはじめといたします京都府北部地域は、古代より大陸との交流を示す多くの歴史遺産が残されまして、さまざまな大陸文化が日本に伝搬した文化交流の結節点に位置いたしますと同時に、日本海に面して多様な地形を形づくり、豊かな自然環境が残されております。

一方、京都府南部には、平安京造営以来1200年の歴史を有します古都京都市などが位置しまして、歴史と地域特性を背景とした日本を代表する文化が培われてきておりますと同時に、21世紀のモデル都市、関西文化学術研究都市づくりが着実に進んでおります。そして、大学や研究機関の集積と併せて、環境をはじめとした産業の発展が期待されるなど、京都府は21世紀の環境と文化を考えるうえで絶好の場であると確信いたしております。

一昨年12月に京都で開催されました地球温暖化防止京都会議では、世界の英知を結集して、将来の人類の存亡にかかわる画期的な京都議定書が採択されました。京都府ではこれを機に、関係団体と共同で地球環境京都宣言を内外に発信いたしますとともに、京都府内における温室効果ガス排出量削減目標の設定とその達成方策の取りまとめをいたしました。この計画におきましては、国の目標を大きく上回る数値目標、6種類の温室効果ガスにおきまして8%、二酸化炭素のみでは12%という削減目標を定め、環境先進地を目指す京都府として地球温暖化防止への強い決議を示

したところであります。

また、環境の世紀を開く、環境先進地京都の創造を目指す一環としまして、環境面における京都の国際的役割への期待にこたえ、地球を構成する一員として国際社会に貢献するために、国や他の自治体等とも連携しながら、友好・提携、州・省との人材交流や技術支援など、環境面での国際協力を積極的に推進することといたしております。このため、京都議定書の発祥の地、京都、しかも環日本海諸国との関係の深いこの舞鶴で開かれます本会議の意義はきわめて大きく、この会議の成果を踏まえまして、今後ともなお一層関係諸国との環境協力を図ってまいりたいと考えております。

なお、京都府といたしましては、この会議が広く多くの皆様方に開かれたものとなり、その成果がより大きなものとなりますように願い、環日本海アカデミック・フォーラムのお力添えをいただきまして、公開の国際シンポジウムと併せて開催することといたしております。この会議の開催を契機に、環日本海諸国の対話が一層盛んになり、環境政策の推進が図られますことを期待いたしますのであります。

結びに、本日の国際シンポジウム、明日からの分科会におきまして、環日本海地域の環境協力の前進を目指して活発な議論が展開され、実り多い成果が得られますとともに、ご参会の皆様方のご多幸を心からご祈念申し上げましてご挨拶いたします。ありがとうございました。

江守 光起（舞鶴市長）

ご紹介を賜りました舞鶴市長の江守光起でございます。本協力会議開催にあたりまして、一言ご挨拶を申し述べさせていただきます。本日より4日間にわたりまして開催されます第8回環日本海環境協力会議に国内外から多数の皆様にご参加いただきまして、まことにありがとうございます。開催地の市長といたしまして厚くお礼申し上げますとともに、心から歓迎申し上げます。

さて、古くから海とともに歩み発展してまいりました舞鶴市は、世界文化遺産として名高い古都京都市の北約80キロ、本州の日本海側沿岸のほぼ中央に位置いたします、青い海と緑の山々に囲まれた自然豊かな町



であります。「世界に開かれた海洋・文化都市」を理想の都市像として掲げ、プサン航路をはじめとしますさまざまな国際貿易の推進や、ロシア連邦ナホトカ市、中華人民共和国大連市等との姉妹・友好都市交流など、環日本海地域との交流の輪を広げ、環日本海時代における近畿圏日本海側の玄関口としての魅力と活力を高めることに鋭意努めております。また、現在本市では、21世紀の舞鶴のあるべき環境像を示し、それを実現するため、環境行政の大綱となるべき環境基本計画の策定作業を進めているところであります。

今日の環境問題は、地球温暖化をはじめとして、従来の手法では解決できない課題が山積いたしており、その発生原因は私たちの生活様式そのものに大きくかかわっておりますことから、その解決には多くの市民の参加を得て、計画がより実効性のあるものとなるよう努めてまいりたいと考えているところであります。

このような中、環日本海地域各国の環境問題に関する情報交換および政策対話の場として、環境協力のあり方等について議論を深める国際会議をここ舞鶴市で開催できますことは、本市が環日本海地域との連携協力をさらに推進し、また、市民と行政が一体となった環境施策を進めていくうえで大変意義深く、開催地としてまことに喜ばしく思っているところであります。

豊かで美しい環境を次の世代に引き継いでいくことは、現代に生きる私たちに与えられた大きな責務であります。私たちが生存していくためには持続可能な開発も必要であります。たった一つしかない宇宙船「地球号」に乗っている私たちは運命共同体であるといわれており、環境問題については地球的規模で考え、国際的な幅広い連携と協力の下、ともに行動する

ことが求められております。今回の会議において、地球環境に関しますさまざまな情報や意見の交換が活発に行われ、相互理解と協力関係がさらに強化されることを願ってやみません。

あとになりましたが、ご参加いただきました皆様にとりまして、舞鶴市での滞在が末永く心に残るものとなりますよう祈念いたしまして私のご挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

江南 和幸（世話人代表）

ただいまご紹介いただきました江南でございます。環日本海アカデミック・フォーラム世話人代表ということで、一言ご挨拶いたします。本日の主催団体の1つの環日本海アカデミック・フォーラムというのは、初めて名前を聞かれる方もあるかと思しますので、少しだけご紹介をさせていただきます。

当フォーラムは京都府の提案により1995年秋に発足いたしました。以来、京都を中心とする日本全国の大学の研究者、最近では海外の会員の方も含めて、フォーラムの会員になっていただいています。さらに加えて自治体と各経済団体、企業のスタッフの方々が京都のフォーラムに相集いまして、日本海を取り巻く地域を巡る学術文化、産業経済、地域振興、およそこの3つに関しまして、あらゆる問題の研究会を開催する。それから、本日のような国際シンポジウムをすでに何回かやっています。また、環日本海地域の研究に関して京都府下の大学への研究助成など、発足わずか4年ではありますが、大変に中身の濃い活動をしております。

事業の1つに、3年前から始まりました環日本海講座があります。これは、大学コンソーシアム京都と共

